

# 主人公

## 型の性格



16 Personalities

## はじめに

「大きな人生の目的を果たすのが自分の使命だ…」こんなふうに、主人公型の人たちは普段感じているでしょう。理想主義で思いやりがあるので、他の人たち、そして世の中に良い影響をもたらすよう努めるタイプです。正しいことをする機会——たとえそれが簡単にできることでなくても——を敬遠することは滅多にありません。

生まれつきリーダー格なので、著名な政治家、コーチ、教師の多くが主人公型の性格タイプなのも納得です。情熱的でカリスマ性があり、仕事だけでなく人間関係も含めた人生のあらゆる領域で人々をインスパイアするでしょう。友人や愛する人が最高の人間になるよう導くことに、とてつもなく大きな喜びとやりがいを主人公は感じるのです。



---

全世界が静かな時には、たった一つの声さえも力強くなる。  
マララ・ユスフザイ

---

## 正しいことを主張する

“自分の利益を顧みないこと”や“偽りのない自分であること”を含めて、主人公は自分の価値観について声高に主張する傾向があります。何か不公平であったり、間違っていたりすると思った場合は、それについてはっきりと話すでしょう。でも、洞察力が高く、繊細な気質の持ち主でもあるので、他の人に共感してもらえるように話すことが得意で、高圧的な印象を与えることはまれです。

人の根底にある動機や信条を不思議なほど正確に理解できる人たちで、なぜ他の人の考えや感情をすぐさま把握できるか自分でも分からないこともあります。でも、このような“ひらめき”のおかげで、主人公は非常に説得力があり、周りの人を大きくインスパイアしながらコミュニケーション取ることができるのです。

---

人の心を変えるのは容易ではありません。——でも、主人公ならできるでしょう。

---

主人公の秘密兵器は、“純粋な意図”を持っていることです。通常、「他の人を操りたい、支配したい」という望みはなく、「正しいことをしたい」と純粋な願いに動機づけられているので、たとえ誰かと意見の相違があっても、双方が合意できる点を見つけようとします。おかげで、無視できないくらいほど雄弁かつ繊細な形で主人公は意思疎通することができ、自分にとって大事な事柄について話すときは、なおさらこの傾向が顕著になります。

## 深入りする

自分にとって大切な人が困っていると、「その人の問題を解決してあげたい…」そして、時には「何が何でも解決してあげたい」と主人公は思います。幸いにも、多くの人は主人公のアドバイスや支援をありがたく感じるでしょう。“他の人の生活改善を手助けする人たち”として主人公がよく知られているのには、やはり理由があるのです。

---

主人公は誠実で優しい気質の持ち主ですが、有言実行する人たちでもあります。  
正しいことをするよう他の人をやる気にさせることで、  
とてつもなく大きな幸せを感じるのです。

---

でも、主人公が他の人の問題に深入りしても、必ずしも成功につながるとは限りません。他の人がより良い人間になるためには何をできるか、何をすべきか—このような明確なビジョンを主人公は持っていますが、変化を起こす準備ができていない人たちもいるでしょう。主人公が強押し過ぎると、愛する人は「不当にジャッジされた」と感じたり、主人公に腹を立てたりすることもあるでしょう。洞察力が高いことで知られている人たちですが、最も賢い主人公であっても時にはうっかり悪いアドバイスを提供したり、早とちりしてしまったりすることもあります。

## リードする

ものすごく利他的なタイプなので、自分が信じているアイデアや人たちを弁護するためには、攻撃されることを覚悟しています。このような強い信条により、主人公が生まれつき持っているリーダーシップ力—特に公共善のために協力して動くよう人々を導く能力—は強化されるのです。

主人公の最大の資質は、模範を示して指導することかもしれません。一見したところつまらない状況にも、慈悲の心、優しさ、熱心さを持って対応できることを、主人公は日常生活の中で示すのです。日々のとてもささいな選択や行動でさえも—“苦勞している同僚にどういふ言葉をかけるか”から、“週末をどう過ごすか”まで—主人公にとっては明るい将来を導く機会なのです。

## 長所と短所



### 主人公の長所

- 包容力がある - はっきりした意見を持っている人たちですが、視野が狭いわけではなく、他の人がじゅうぶんに自己表現をする重要性を理解しています。意見の相違があっても、“自身の真実を表明する権利”が相手にあることを認識しているのです。
- 頼りがいがある - 自分が信じている大義に関して信頼に背く行為をしたり、自分が大切な人を失望させてしまったりすると、とても落ち着かない気持ちになります。—たとえ実行するのが難しい場合でも—約束を守り、責任を持って最後までものごとをやり抜く人たちとして信頼されています。
- 情熱的 - 慈善家ぶった退屈な人たちでは決してなく、さまざまな興味関心を持っていて、たとえばハイキング、料理、ダンス、観葉植物の世話または何か全然別のことであっても、趣味を追求するのが大好きです。その結果、「何か面白いことをしたいけど、何をすればいいかわからない…」という状況にはほとんど陥りません。
- 自分の利益を顧みない - 「前向きな変化を起こしたい」という強い願望を抱いているので、さまざまな人たちを呼び集められれば、多くの善行を成し遂げられると心から信じています。
- カリスマ性がある - インスピレーションあふれる上に強い意志がある人たちなので、指導的役割につくことが多いでしょう。たとえばソフトボールチームのキャプテンになったり、世界を舞台にするリーダーになったりする場合でも、“人の役に立つ”という自分にとって一番の目的を見失うことはありません。

### 主人公の短所

- 非現実的 - 「自分が出くわすすべての悪を是正しなければいけない」と、自分にプレッシャーをかける主人公は少なくありません。でも、たとえものすごく頑張ったとしても、世の中のすべての問題を自分で解決できると考えるのは当然、非現実です。気をつけていないと、多くのことをしようとすすぎて、まったく人助けをできない状況に陥ってしまうこともあります。

- 過度に理想主義的 - “何が善で何が悪か”について明確な信念を持っている傾向があるので、「他の人も自分同様に善悪に関する基本原則を理解している（または、理解すべき）」と考えがちです。よって、たとえば真実や公正などという、主人公の基本的価値観に反する行動を他の人がすると、かなりショックを受けてしまう場合もあります。
- 横柄 - 他の人に色々なことを教えるのが好きな人たちです。自分にとって重要な大義や信条についてはことさらにです。でも、他の人を啓発しようとする姿勢が横柄と見られることもあり、残念ながら相手とうまく説得できないこともあります。
- どぎつい - 自己研鑽について非常に情熱的で、より良い人間になる確固たる決意がある人たちですが、このような思いを抱いていない人もいることに気づかない場合があります。自分を変える準備ができていない人、または、そもそもそんなことに興味がない人たちに変化を起こすよう無理強いすることもあるでしょう。
- 共感しすぎる - 慈悲深さは主人公の最大の強みの一つですが、他の人の問題を自分ごとにしてしまうことがあり、この癖のせいで心身ともに疲れ切ってしまうこともあります。

## 恋愛関係

心に関することに極端に熱心にならずにはいられない人たちです。自分の理想以外で妥協することは滅多にないタイプなので、恋愛においてもこの姿勢は変わりません。




---

部屋の反対側にいる相手の外見に惹かれて恋に落ちるのではなく、相手の人格や魂に恋したい…と主人公は願っています。

---

相手に気のあるそぶりを見せたりもして、社会的に見える人たちですが、ほんの一瞬お互い惹かれ合う—そんなつかの間の恋愛で満足する主人公はあまりいません。主人公は恋愛に関して高い基準を持っていて、そのことは自分でも認識しています。だからこそ、本当に相性いい人との出会いがあったら、またさらに、その出会いが真の愛につながり長期

的に安定した恋愛関係に発展すれば、すくまれで特別なこととして心からありがたく感じるでしょう。

### 駆け引きを超えた付き合い

一旦恋をすると相手にぞっこんになる傾向があり、また、そんな自分の気質を恥ずかしがることもありません。ためらわずに自分の感情を表すタイプなので、相手が自分に好意を寄せていることを確認できるまで待ったり、駆け引きをしたりするのではなく、気になる相手に自ら進んでアプローチするでしょう。

このように自らの興味を積極的に示す様子を新鮮、または、かなり珍しいと感じる人もいるでしょう。激しく情熱的な気質に加えてこの積極性は、多くの人にとって信じられないほど魅力的です。相性抜群の人を探す過程で相手に自らアプローチすることはとてもよくあるので、拒まれることもそれなりにあるでしょう。

---

恋愛に真剣に取り組んでいることを相手に示すために、主人公は多くの時間と労力を費やし、信頼できて頼りがいのあるパートナーとして認められるよう励むでしょう。

---

### 一緒に夢を描く

初デートの時であっても、比較的重いトピックに会話を持っていこうとする場合があります。相手がどんなテレビ番組を観るのかを知りたいだけでなく、その人の夢や憧れ、どんな風に自分を、そして世界を変えたいか…これらを感じ取りたいのです。そして、関係が深まってきたら、主人公はパートナーの夢の実現をサポートすることに誇りを感じるでしょう。

---

大切な人が目標を達成する手助けをする—  
このことに主人公はものすごく大きな喜びを感じます。

---

さらに一歩進めて、パートナーの目標を自分の目標としてとらえる主人公も中にはいます。これは控えめに言っても問題がある行動でしょう。パートナーを助けることにどっぷり浸かり過ぎてしまうと、自分の友人関係、趣味、セルフケアをないがしろにしてしまうこともあります。パートナー自身は変化を起こす準備ができていないのに、パートナーの生活を変えるよう強要してしまうというリスクもあります。

度が過ぎるとパートナーに自己改善をするようプレッシャーをかけても逆効果になり、高い可能性で次の二つのどちらかの状況が生じるでしょう。パートナーが「自分は力不足」と感じ、自分に自信を持てなくなる、または、“自分は変わらなければいけない”ということから間接的に受け取れる意味に対してパートナーが憤りを感じる…。いずれにせよ、パートナーをせき立てることなく成長を励ますやり方を主人公は学ぶ必要があります。

## 長期戦

パートナーと共に愛情あふれた関係を築き合うようコミットする——。これを主人公ほど切望する性格タイプはあまりいません。恋愛関係を真剣にとらえる人たちなので、付き合いがまだ浅い段階であっても恋愛関係の長期的ポテンシャルに着目して、関係が成熟してくると、ポテンシャルを開花させるためにはどんなことでも行うでしょう。

主人公は“今この瞬間”もじゅうぶんに楽しめる人たちですが、楽しいことばかりが愛ではないとも理解しています。

これは美しいことでもあります。主人公はパートナーを喜ばせることを重視する上に繊細な性分もあるので、パートナーの次々に変化する感情や欲求を理解できるのです。自分のニーズを見失うことさえしなければ、パートナーと助け合い、信頼し合い、お互いに正直であり続け、そしてもちろん愛に基づく関係を築くことで、このうえなく充実した付き合いをエンジョイするでしょう。

## 友人関係

主人公は他の人たちとつながると目的意識を感じられる上に元気をもらいます。友人関係について決して無関心ではないことも納得でしょう。友人と親密な関係を保てるように、誠実に一生懸命努力するタイプで、友情を使い捨てたり「取るに足りないものだ」と考えたりすることは絶対になく、友人関係はよい人生を送るための重要な要素だと考えています。



## 多様な視点

主人公ほど、他の人について色々知りたいと心から思う性格タイプはきつといないでしょう。誰かの癖、考え、希望、過去の愚行について知ることができると純粋に喜びを感じ、(たとえまったく賛成できなくても)つい他の人の世界観に興味をかき立てられます。多様な視点について学ぶことで、人生は面白くなると思うのです。

---

自分とは異なるアイデアや経験を持つ人も含めて、多種多様な友人や知人に主人公は囲まれているでしょう。

---

とはいえ、「他人を見下したり、手を抜いたり、現状を疑わなかったりする人たちは尊敬しがたい」と多くの主人公は感じます。自分と同様の理想を持つ人たちとなら、お互い理解し合うのが最も容易だと感じるでしょう。正しいことをする、そして、世の中をより良くするように努める—こういった共通認識がある人とはなおさらにです。

このような親しい友人には自分が最も大切にしている夢について語ったり、自分の脆弱さを開示したりして心を打ち明けるでしょう。穏やかで優しい上にサポート上手なので、多くの人と人間関係を築くことができる人たちです。でも、不安に思っていることを含めて主人公が自分のすべてをさらけ出すのは、信頼できる少数の友人の前だけででしょう。

### どんな時でもそばにいる

主人公は誰もが理想とする素晴らしい友人です。優しい心の持ち主である上に信頼できる人たちで、友人関係に莫大な労力をつぎ込み、色々と配慮してくれるでしょう。ただ単に友人が「自分は主人公に受け入れられている」と感じるだけでなく「主人公は自分を応援してくれている」と感じてもらう、また「主人公は自分に耳を傾けてくれる」と思うだけでなく「主人公は自分を理解してくれている」と感じることを望んでいるのです。

---

目的意識を持って、親しい友人たちから大勢の知人までの人間関係にアプローチするので、主人公は簡単には壊れないような絆を築くことができます。

---

大小さまざまなやり方で、友人のために動いてくれる人たちでもあります。たとえば仕事でクタクタに疲れていても、友人の履歴書をレベルアップさせるために時間を取ったり、励ましを必要としている友人の誕生日を祝うために皆で週末旅行に行く企画をしたり—。自分にとって大切な人たちが元気であるのを見るとものすごく幸せを感じるので、その人たちを元気にさせるよう頑張るのです。

### うまくバランスを取る

主人公は人助けが好きなのですが、結果に満足できないこともあります。いくら主人公が相手をサポートしたくても、主人公のサポートを有効活用するための気力やモチベーションがない、またはそもそも興味がない人がいるのも事実です。たとえば、友人は履歴書に関する主人公のアドバイスを無視するかもしれません。または、主人公が改善した履歴書を使って色々な仕事に応募するのではなく、ただリラックスしてのんびり過ごすかもしれません。



そんな時、主人公は「自分の努力は無駄骨だった」と感じたり、がっかりしたり、イライラしたりすることもあるでしょう。友人を前進させたいがために相手を批判してしまう場合さえありますが、ほとんどの場合は恨みを買う結果となるでしょう。

---

精神的に成熟するにつれて、  
主人公は友人の態度や言動を個人的にとらえないようになります。

---

これは逆説的なのですが、柔軟な態度を持つと、自分にとって大切な人たちを効果的にサポートしやすくなります。多くの主人公が気づくことですが、最も長続きする友人関係の基盤としては、お互いの成長だけでなく、お互いを心から尊敬し、受け入れ合い、思いやりを持って接することも不可欠なのです。

## 子育て

主人公は持ち前の慈悲深さ、決意、さらにはリーダーシップスキルも含めて、すべての長所を生かして子育てをします。親として極めて強い目的意識があり、子どもが非常に有能で、とても優しい、最高の人間に成長するよう支援するのが自分の使命だと考えています。

そのために、子どもが愛情にあふれた家庭で育ち、じゅうぶんなサポートと励ましを得られるよう努めるでしょう。主人公は子どもの個性を大事にするよう働きかけたり、子どもの独創性を促進したりするので、子どもは自由に自分の意見と言ったり、自分らしく振る舞ったりするでしょう。子どもが個性豊かな人間に成長していくのを見ると、主人公は子育てに非常に大きなやりがいを感じます。

## 人生で最も重要な教訓

とはいっても、主人公は“何をしてもいい”という考えを持つわけではありません。他の親と同様に、自分の親としての権威を振りかざして、「親である私がやりなさいと言っているから」という理由で子どもに何かをやらせることも時にはあります。でも心の奥底では、何も疑わずに子どもが親の言うことに従うのではなく、“何が正しいことなのか”を理解した上で行動するようになってほしい…と思っているのです。

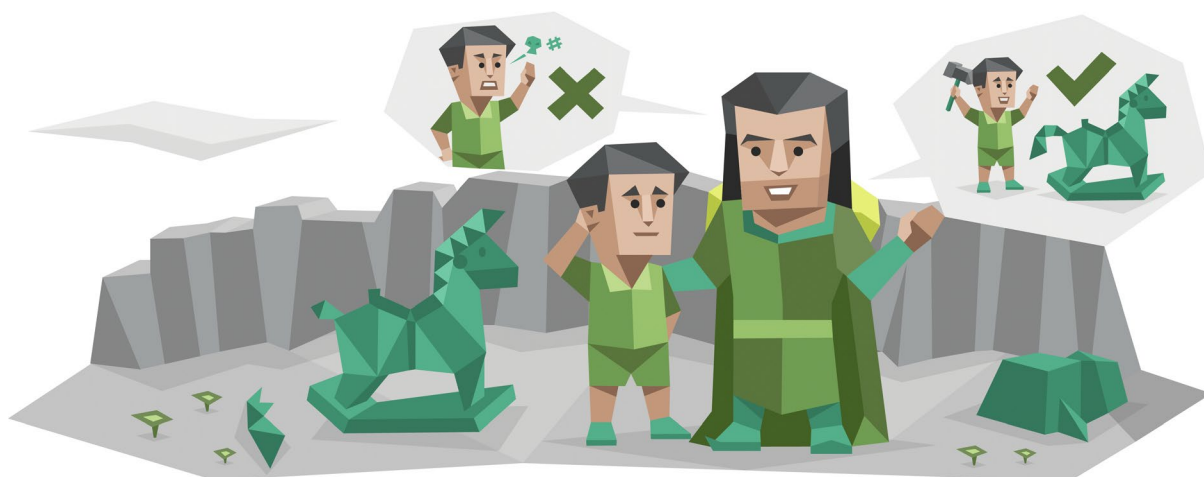
---

子どもが自分特有のポテンシャルを発揮できるよう応援するのは、  
愛情深い親としての義務だと主人公は考えています。

---

通常、主人公は子どもの年相応、かつ明確な規則やバウンダリーを設定するので、無責任だったり思いやりに欠けたりする行動をした場合どんな結果になるのか、子ども自身が理解しているでしょう。主人公は子どもに厳しく接することもあります。それは子どもを愛しているからで、しっかりした価値観や個人としての責任感を身につけてほしいと思っているからなのです。

幸いにも、主人公は温厚で理想主義的な人たちなので、子どもをサポートしながらインスパイアする形で善悪について説明できるでしょう。同時に、子どもに真似してもらいたい言動を主人公自身が取ることで、子どもに手本を示すでしょう。



### 大いなる期待

主人公は子どもに高い基準を課す人たちですが、通常、これは善意からです。というのも、子どもが自身の潜在能力をうまく活用して有意義で充実した人生を送れるように、若いうちから環境を整えてあげたいと思っているからです。

---

それぞれの人がどのように世界に貢献するか——  
これを見極められる能力に、主人公は誇りを感じています。  
この能力のおかげで、子どもの才能や能力も見い出せるのです。

---

ただし、主人公の子どもは親の期待を重いプレッシャーに感じることも時々あります。「ものすごく多くのことを親に期待されているから期待に応えるのはほぼ不可能だけど、親から愛されるためには期待に応えなければいけない…」と子どもが感じることもあるでしょう。このような場合、「あなたが何をしようとも、ありのままの姿を愛している」と子どもに伝えることが必要かもしれません。

### サポート基盤

幸いにも主人公は繊細なので、「自分を受け入れてもらいたい」というニーズも含めて、子どもの心の奥にあるニーズを把握できるでしょう。子どもが学び成長し、夢を追いかけるよう強く働きかける人たちですが、同時に子どもの一生に影響を与えるような情緒的なサポート基盤も提供できるのです。

---

子どもがすくすく育つために必要なすべてを提供する—  
そのためには、主人公は時間と労力を惜しみません。

---

親が与えてくれた偽りのない愛、ケア、励まし、温かみを、主人公の子どもは成長してからも忘れることはほとんどないでしょう。また、親から教わり自分の人格の一部となった様々な価値観(正直である、周りの人の気持ちに共感する、自分の行動に責任を持つ、正しいことをするのは極めて重要である…などを含めて)を心から大切にしている傾向があります。

## キャリアパス

キャリアを選ぶにあたり主人公は、自分が一番好きなこと—つまり、人助け—をすれば、やりがいを感じられるでしょう。独創性とやる気がある人たちなので、ほぼすべての職場で誰かの役に立ち、他の人をサポートする方法を見つけられます。たとえば企業の役員室にあるピカピカの机で仕事をしていても、皆に愛されている地元の喫茶店のカウンターの後ろで働いていてもです。



---

やりがいのある仕事を見つけるにあたり、主人公がインスピレーションやチャンスを欠くことはほとんどないでしょう。

---

## 自分の居場所

持ち前の感情的知性(EI)と対人スキルのおかげで、人との関わりがメインの仕事(たとえば人事、イベントマネジメント、採用、広報など)なら、大抵は活躍できます。他の人が学び成長し、自主性を養う—そんなことを導く立場なら、なおさらやる気を持って仕事に取り組めるでしょう。利他的な性分を生かせる仕事、たとえば福祉、教育、カウンセリング、コーチング、ヘルスケア、公益についての法律関連業務などに惹かれる主人公も少なくありません。

---

“他人に奉仕したい”という想いと“大きな野心”は、決して相性が悪くはない——  
このことを主人公は証明してくれます。

---

主人公は目立たない人たちではなく、リーダーシップ力で知られている人たちで、影響力のあるポジションにつくことがよくあります。多種多様な組織（非営利団体や宗教団体から、強気のスタートアップや超大企業まで）で指導的地位についていたり、公職に就いていたり、さらにはコンサルタント、アドバイザー、マネージャーなどの肩書きを持つ主人公もいるでしょう。

どんな仕事をしていても、“人々の生活を改善する”という自分にとって最も重要な使命を見失うことはまれです。直感的にクライアントや顧客のニーズを理解して、クリエイティビティを生かしながら革新的かつ意外なやり方でニーズを満たすでしょう。その結果、営業、カスタマーサービス、マーケティング、広告、製品開発などの仕事に誠実に取り組み、理想主義さえも仕事に取り入れることができるのです。

### 複雑な問題を見つける

士気が高い上に集中力がある人たちなので、いつでも課題に取り組む準備ができています。ただし、やる気を感じやすい課題とそうでない課題があり、反復的な仕事、ひとりで取り組まなければいけない仕事、制約がある仕事などにはイライラしてしまうでしょう。自分一人でコツコツ作業をするのではなく、自分の仕事のインパクトを主人公は見たいのです。

---

「自分の仕事がどんな好影響をもたらしているか目にしたい」と主人公は心の奥底で思っています。自分が助けた人たちの感謝の意を、実感したいのです。

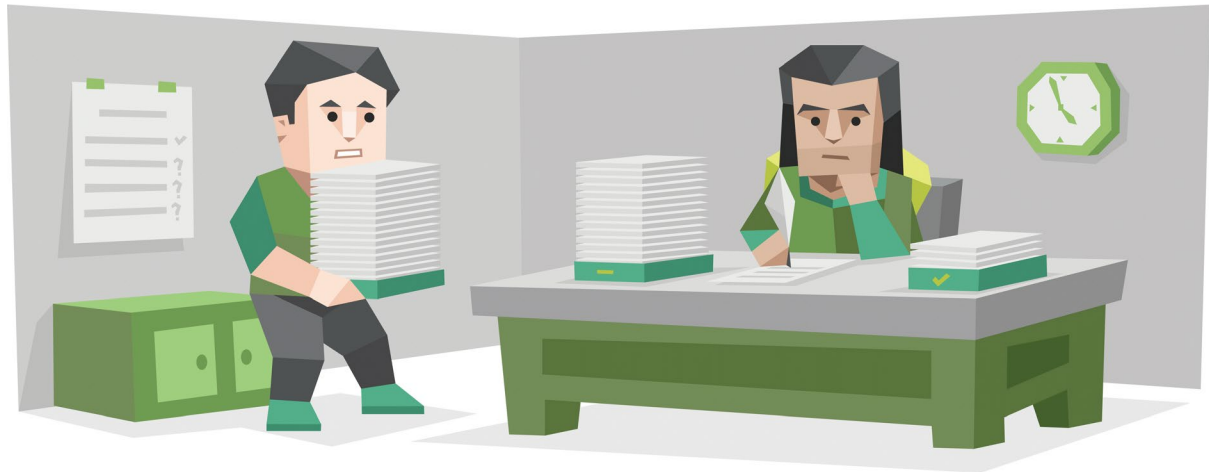
---

一歩下がって全体像について考えられる仕事に主人公はやりがいを感じ、活気づけられるでしょう。ポジティブなレガシーを残すことは、主人公にとってとても重要です。“世界の飢えをなくす”など壮大なものでなくても構いませんが（でも主人公ならありうることです）、顧客や同僚が面している複雑な問題を少なくともいくつか解決するために、仕事で大きな労力を費やすでしょう。

洞察力が高い上に多才なので、仕事を通して多くの強みを発揮できる人たちです。時々、行き詰まりや退屈を感じ、「日々行うタスクを通して、世の中にもっと明らかな変化をもたらせばいいのに…」とってしまうこともあるでしょう。でも、主人公は独創的かつ自分の利益を顧みない人たちなので、どんな仕事をしていても公共の利益に貢献する方法をほぼ必ず見つけられるでしょう。

## 職場での傾向

主人公は心温かく、社交的、独創的かつ理想主義的で、カリスマ性がある人たちです。このような追い風を受けながら、あらゆる職種で、どんなレベルの立場にいても大いに存在感を発揮できます。さらに通常、人当たりがよく温厚な気質もあるので、誰かと連携して働くチャンスがあればどこにいても成功を取めるでしょう。



### 部下として

部下として自分の能力を証明して上司により印象を与えるよう、一生懸命頑張る主人公は少なくありません。敏感かつ熱心な性分なので、元気いっぱい働きながら、複数の責務をまっとうするでしょう。

---

主人公は頼りがいがあり、勤勉で、人助けをしたいと思う人たちなのですが、これらの長所が“もろ刃の剣”になる場合もあります。

---

残念なことに主人公の勤勉意欲につけこみ、数多くの余分な仕事を主人公に頼む上司も中にはいるので、仕事を抱え過ぎてしまうこともあるでしょう。自分をじゅうぶん擁護できる人たちなのですが、あつれきを避けて、また相手を失望させないためにも、追加のタスクを引き受けてしまう可能性もあります。

### 同僚として

同僚としては「他の人と協力して仕事を進めたい」という主人公の強い想いが、他の人の目を引くでしょう。ウィンウィン状況を作り出して、同僚が能力をすべて発揮できるよう手助けするチャンスを主人公はいつも探しています。肩書きに関わらず皆が安心して自分の意見やアイデアを口にできるような公正なチーム環境を、主人公は育むでしょう。

---

主人公は人付き合いが得意な上に寛容なので、  
同僚に親しみを感じやすいのです。

---

そうはいつでも、色々なことを管理したがる主人公の気質を不快に思う同僚もいるでしょう。リーダー的役割を担いたい…という強い意欲があるので、自分の権限を超えて決断を下したり、変更を提案したりしたくなります。そうすると、同僚に「ちょっと待った。あなたが仕切っていて、誰が言ったの？」と聞かれることもあるでしょう。

### 上司として

「上司やリーダーとしての立場につくのは自分の使命だ」と感じる主人公は少なくありません。カリスマ性と高い洞察力を備えていて、しかも人々をインスパイアするコミュニケーションスタイルを持つので、指導者としてチームを導く機会を与えられると活躍することが多いでしょう。そして、チーム内の部下たちも活躍するよう働きかけるでしょう。

---

上司として部下のやる気を引き出すだけでなく、  
主人公は部下をインスパイアします。

---

主人公はチームの各メンバーを“独特のポテンシャルと重要な資質を持つ人間”として見る傾向があります。その結果、主人公の下で働く人たちは仕事にやりがいを感じられる上に、仕事から活力を得られるでしょう。というのも主人公が上司だと、仕事を通して人間として、そして従業員として成長するチャンスがあるからです。

とはいっても、理想主義のせいで従業員の真の限界を認識できないこともあります。時期尚早に任務を課してしまったりして、思わぬ面倒を招くこともあるでしょう。幸いにも持ち前の感情的知性と判断能力を生かせば、やり過ぎない程度に従業員の成長を促せるようになるでしょう。

### まとめ

ここに書いてあることは、主人公の複雑な性格タイプのほんの“さわり”です。これを読みながら、あなたは「これはどんぴしゃで自分に当てはまる」「やっと理解してもらえた！」「すごく仲が良い人も知らないことをなんで知っているんだろう？」などと、心の中で思ったかもしれません。

「自分のことを分かってもらえた」と感じているかもしれませんが、私たちは実際にあなたのことをよく理解しています。長年の研究を通して、私たちはあなたのような主人公の持ち味や苦手なことについて深い洞察を得ました。あなたの創造力や情熱、そして“正しいこと”をすることへの強い思い入れを、私たちは認識しています。あなたの性格が持つ負の側面も知っています。「たった一回しかない貴重な人生を思うように満喫できずに、自分の可能性をフルに開花できないかも」と不安が頭を離れないことも…。

---

主人公には理想追求の姿勢、意志の強さ、よりよい将来を想像する力などの資質があります。ただし、人にほめられるだけで満足する人たちではありません。  
自分の長所を生かすことで、よりよい人間になり、  
世界に貢献したいと強く願っているのです。

---

だからこそ私たちの使命は、あなたのような主人公が自分の特性を認識するだけでなく有効活用できるようサポートすることなのです。自分の性格タイプについて学ぶのは面白いのですが、それ以上に深い目的もあります。なぜなら、自己理解があれば自分がこの地球上に存在する意義、つまり“自分の使命”を見失わずに生きやすくなるからです。

そこで、主人公のあなたに質問があります。自分特有の強みをじゅうぶんに生かしながら、あなたが本来持っている類いまれな潜在力を解放しませんか？自分の性格・人間関係・キャリアパス・使命について新たな洞察を得るために、プレミアムガイド&テストをお読みください。これは生涯にわたる“旅”になるでしょう。旅に出るのに必要なことはすべて、プレミアムガイド&テストに書いてあります。

[プレミアムガイド&テストをしてみる →](#)